



7 発子第 3 号

(令和 8 年 3 月)

発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター

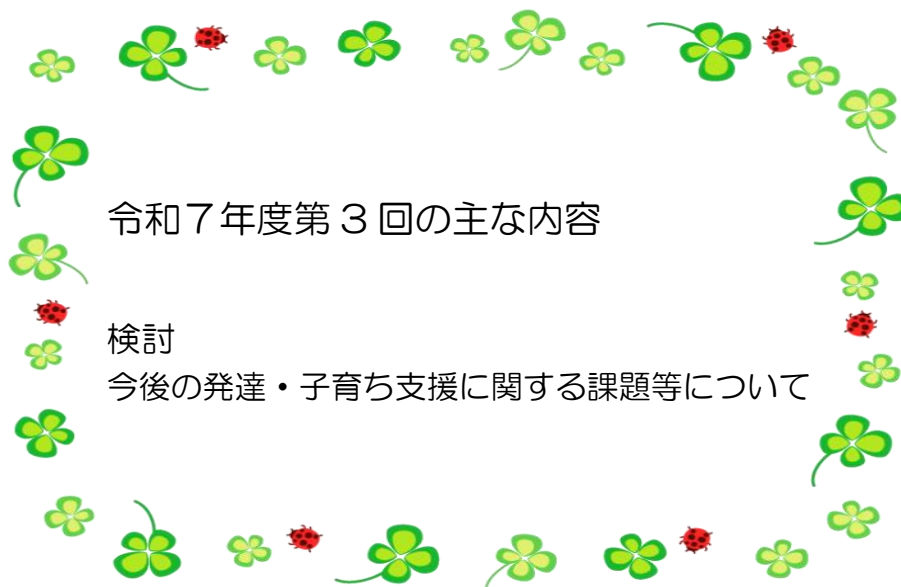
アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



乳幼児教育・保育推進事業 通信
～令和 7 年度 発達・子育て支援専門部会～



令和 8 年 2 月 18 日（水）に、令和 7 年度第 3 回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 発達・子育て支援専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



令和 7 年度第 3 回の主な内容

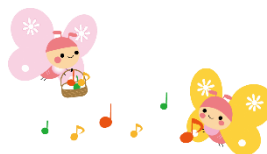
検討

今後の発達・子育て支援に関する課題等について

専門部会とは



「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育て支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○ 検討



今後の発達・子育て支援に関する課題等について

- 発達については、子ども同士を比べるのではなく、その子ども自身の今までを振り返って、成長を見ていくことが大切である。
- 施設全体で意識を高めていくためには、もっと多くの色々な人が研修の場に出てくる必要がある。
- 子どもの気持ちに寄り添うだけでなく、「集団が個を伸ばす」ということについても話し合っていく必要がある。
- 生活発表会など子どもが成長のステップを踏めるような場面で、意識を高く持って取り組んでいる園の話を聞いて共有していくのも良いのではないかな。
- 「劇やお遊戯は子どもみんなが揃って出来ている」ことが良いときもあるが、子どもの好きなことはそれぞれで異なる中、「好き」を見つけながら形にしていき、子どもたちそれぞれが輝ける場を作っていくための方法について語る場もあると良いのではないかな。
- 子どもが困っている場面を「しんどい」と呼んでいるはずだが、「集団活動の中でみんなとなかなか一緒に遊べない」などといった子どもに保育者の言葉が届きにくいような場面を、保育者にとって「しんどい」と言ってしまうのではないかな。そういった気づきを共有していくのはどうか。
- 保護者を通して、療育施設で言われたこと等を聞くことがあるが、後で療育施設の先生等に聞くと、保護者から聞いた話と異なる場合がある。保護者の思いに寄り添いつつ療育施設等との連携を行っていくことが大事ではないかな。



宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

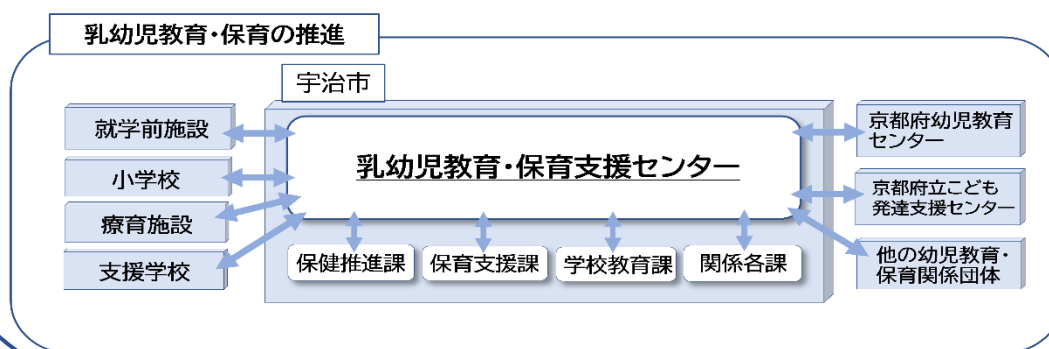
宇治市乳幼児教育・保育支援センターは、全ての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築し、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有するとともに、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、次の3つの機能に基づく施策を推進することにより、保育士、教諭等の人材育成を図り、もって乳幼児教育・保育の質の向上に資することを目的として、令和7年4月に開設しました。

<3つの機能>



宇治市では、センターにおいて、就学前施設、小学校、療育施設及びその他の関係機関が連携・協働できるようコーディネートすることにより、施策を推進します。

<連携・協働のイメージ>



宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したもの。